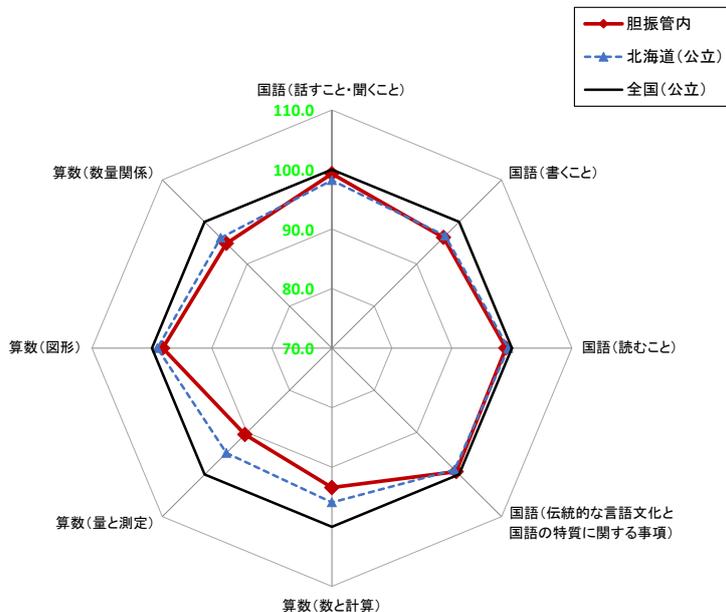


■小学校の状況(学校数:73校、児童数:2,909人)

【教科全体の状況】

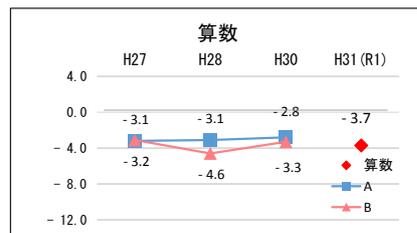
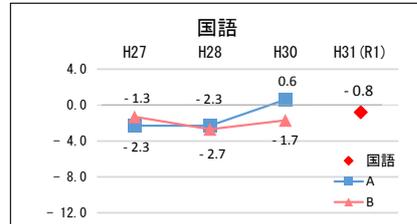
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(全道及び管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【平均正答率】

	国語	算数
胆振	63[63.0]	63[62.9]
全国	64[63.8]	67[66.6]

【平均正答率の推移】(数値は管内の数値)

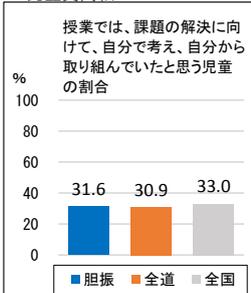


※「管内の平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の終年変化
※H29は、学力調査実施日における暴風・大雨の影響で、全体の児童数に対して、当日実施した学校の児童の割合が5.7%であり、管内全体の状況を示すことができないため掲載していません。

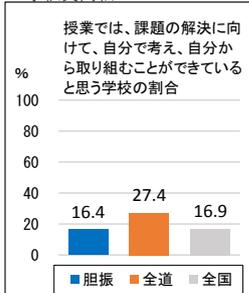
【質問紙の状況】

学習意欲、指導方法

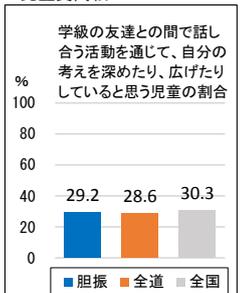
* 児童質問紙



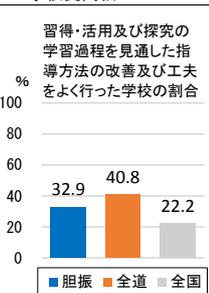
* 学校質問紙



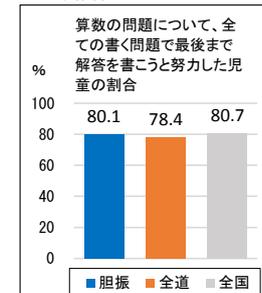
* 児童質問紙



* 学校質問紙

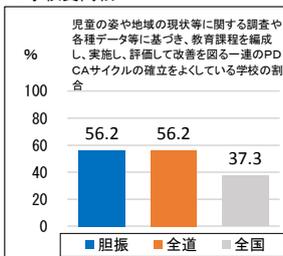


* 児童質問紙

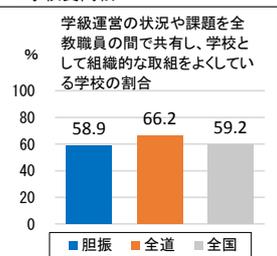


カリキュラム・マネジメント

* 学校質問紙

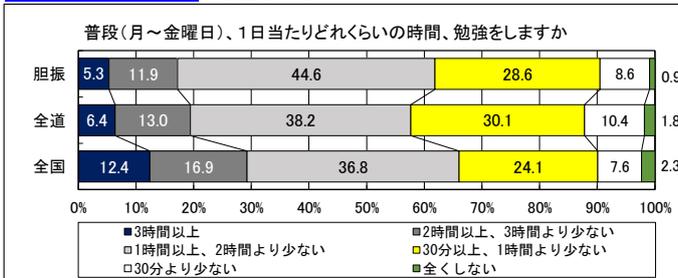


* 学校質問紙



学習習慣

* 児童質問紙



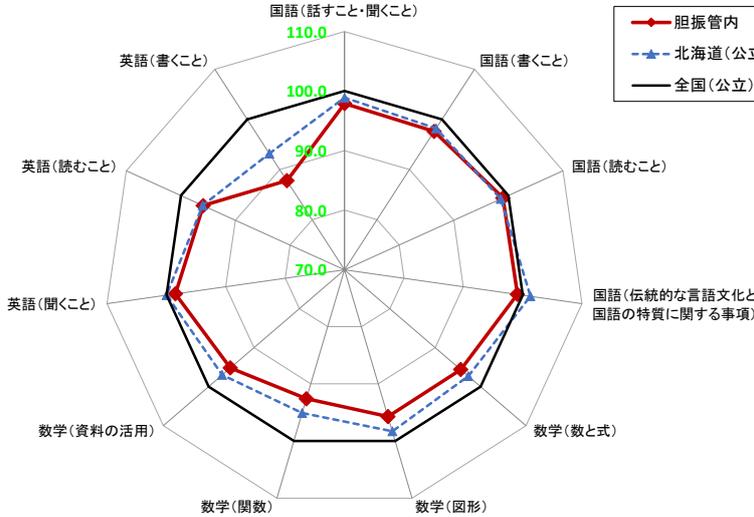
【分析及び改善の方向性】

分析	内容
分析	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立をよくしている学校の割合が、全国を上回っている。 ○ 算数の全ての領域で、全国を下回っており、特に、「量と測定」で差が大きく、課題である。 ○ 普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強している児童の割合が、全国を下回っており、課題である。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き、全国学力・学習状況調査の結果や授業評価等の分析結果から、取組の重点化を図り、学校改善プラン等へ確実に反映させるとともに、学校改善プラン等に基づいた取組を徹底していく必要がある。 ○ 課題が見られた領域や内容について全教職員の間で共有し、児童が主体的に学習に取り組めるよう、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の工夫・改善を行うなどの組織的な取組を進めていく必要がある。 ○ 家庭学習の取組方針や方法、内容等を学校全体で統一して指導するとともに、保護者や児童に対する学校の取組方針や方法等の説明を通じて、学校・児童・家庭が一体となった取組を進めていく必要がある。

■中学校の状況(学校数:42校、生徒数:2,937人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したものと(全道及び管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

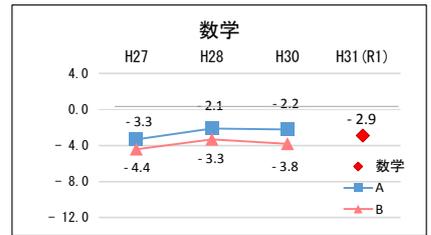
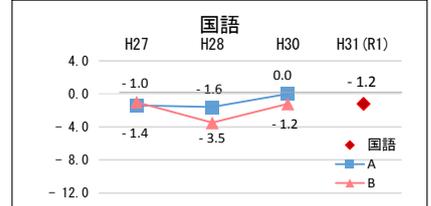


【平均正答率】

	国語	数学	英語
胆振	72[71.6]	57[56.9]	53[52.8]
全国	73[72.8]	60[59.8]	56[56.0]

※英語は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計値

【平均正答率の推移】(数値は管内の数値)

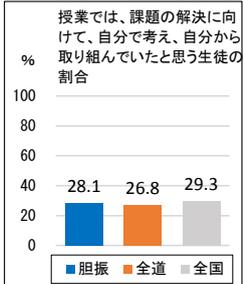


※「管内の平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の経年変化
 ※H29は、学力調査実施日における暴風・大雨の影響で、全体の生徒数に対して、当日実施した学校の生徒の割合が4.5%であり、管内全体の状況を示すことができないため掲載していません。

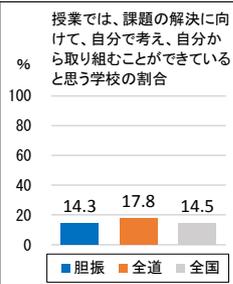
【質問紙の状況】

学習意欲、指導方法

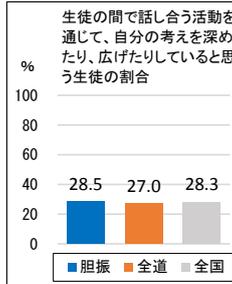
* 生徒質問紙



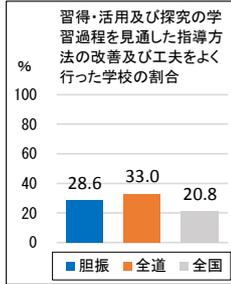
* 学校質問紙



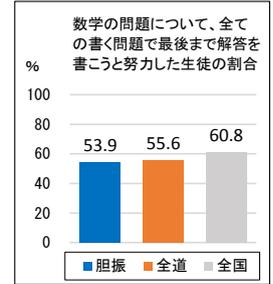
* 生徒質問紙



* 学校質問紙

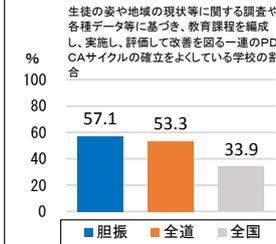


* 生徒質問紙

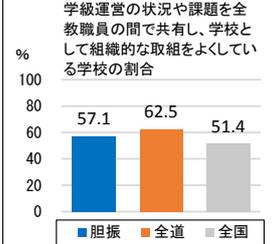


カリキュラム・マネジメント

* 学校質問紙

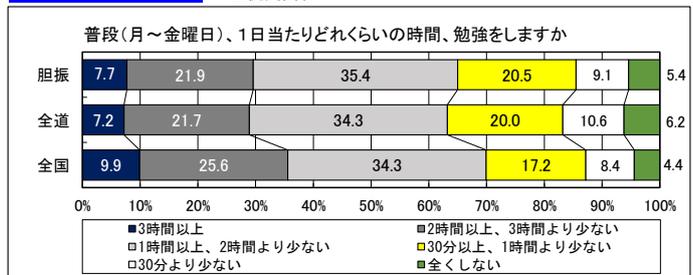


* 学校質問紙



学習習慣

* 生徒質問紙



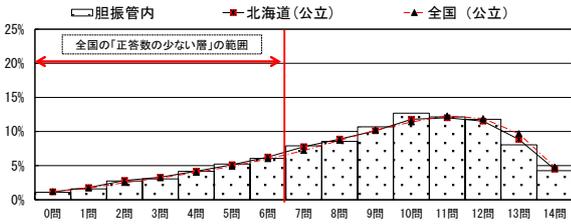
【分析及び改善の方向性】

分析	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立をよくしている学校の割合が、全国を上回っている。 ○ 数学の全ての領域で全国を下回っており、特に、「関数」で差が大きく、課題である。 ○ 普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強している生徒の割合が、全国を下回っており、課題である。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き、全国学力・学習状況調査の結果や授業評価等の分析結果から、取組の重点化を図り、学校改善プラン等へ確実に反映させるとともに、学校改善プラン等に基づいた取組を徹底していく必要がある。 ○ 課題が見られた領域や内容について全教職員の間で共有し、生徒が主体的に学習に取り組めるよう、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の工夫・改善を行うなどの組織的な取組を進めていく必要がある。 ○ 家庭学習の取組方針や方法、内容等を学校全体で統一して指導するとともに、保護者や生徒に対する学校の取組方針や方法等の説明を通じて、学校・生徒・家庭が一体となった取組を進めていく必要がある。

胆振管内

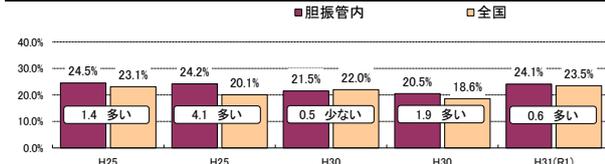
小学校国語

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
胆振管内	2,909	8.8 / 14	63.0	9.0	3.3
北海道(公立)	38,831	8.8 / 14	62.8	9.0	3.4
全国(公立)	1,028,203	8.9 / 14	63.8	10.0	3.4



●全国の「正答数の少ない層」は、6問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合



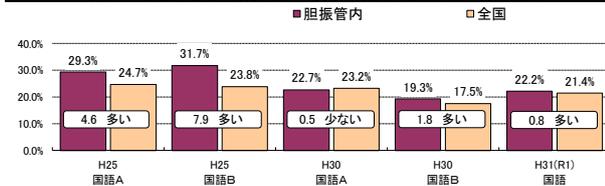
中学校国語

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
胆振管内	2,937	7.2 / 10	71.6	8.0	2.3
北海道(公立)	37,859	7.2 / 10	72.1	8.0	2.4
全国(公立)	938,797	7.3 / 10	72.8	8.0	2.4



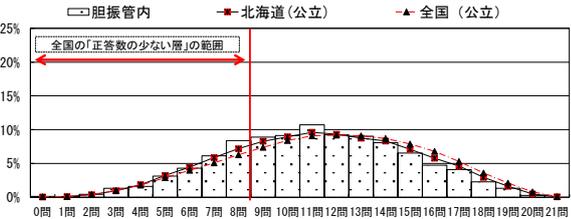
●全国の「正答数の少ない層」は、5問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



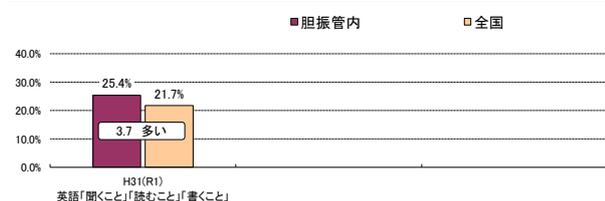
中学校英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
胆振管内	2,931	11.1 / 21	52.8	11.0	3.7
北海道(公立)	37,844	11.4 / 21	54.2	11.0	3.8
全国(公立)	938,888	11.8 / 21	56.0	12.0	3.9



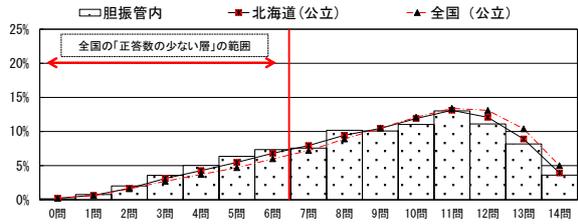
●全国の「正答数の少ない層」は、8問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



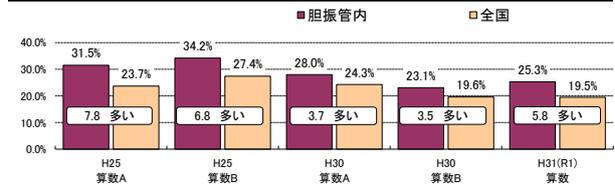
小学校算数

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
胆振管内	2,909	8.8 / 14	62.9	9.0	3.2
北海道(公立)	38,837	9.0 / 14	64.5	9.0	3.1
全国(公立)	1,028,177	9.3 / 14	66.6	10.0	3.1



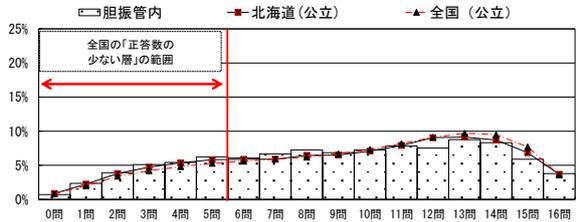
●全国の「正答数の少ない層」は、6問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合



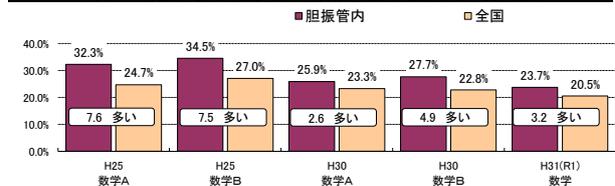
中学校数学

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
胆振管内	2,934	9.1 / 16	56.9	9.0	4.2
北海道(公立)	37,844	9.3 / 16	58.1	10.0	4.2
全国(公立)	938,887	9.6 / 16	59.8	10.0	4.2



●全国の「正答数の少ない層」は、5問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



【参考】【平成28年度(小学校)】全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

小学校国語A

胆振管内	全国
24.0%	21.3%
全国との差 2.7 多い	

小学校国語B

胆振管内	全国
34.3%	29.8%
全国との差 4.5 多い	

小学校算数A

胆振管内	全国
29.1%	24.2%
全国との差 4.9 多い	

小学校算数B

胆振管内	全国
24.8%	20.0%
全国との差 4.8 多い	